

名古屋から国道41号線を北上すること約3時間  
海拔776mの宮峠を越えると 宮川沿いの山間盆  
地高山のまちなみが広がる。 観光シーズンには  
飛騨の歴史や自然とのふれあいを訪ねる人でぎ  
わうが 普段は静かな明け暮れをつづける山国の  
中心地である。

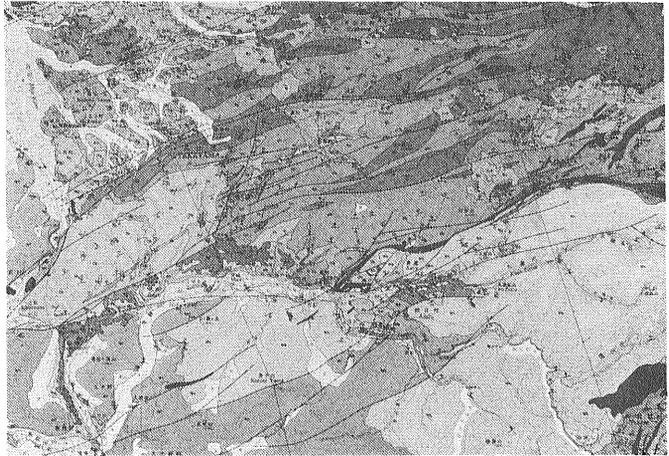
高山図幅地域は その北西部に高山盆地を含む  
ほかは乗鞍岳と峰つづきの急峻な山地からなる。  
数年前までこの地域は フズリナ化石 平金鉱山  
「第四系」などについての断片的な報告があるの  
のみで 本州中央部に残された地質学上の空白地帯  
の1つであった。

昭和57-58年度の地震予知特定観測地域の 研究  
計画にこの地域が取り上げられ 地質調査所・名  
古屋大学・岐阜大学の6名のメンバーの共同研究  
により このほど標記のようにとりまとめられ  
た。

この地域の北部から東部にかけて広く分布するのが 美濃帯  
中・古生層である。 放散虫・コノドントなどの微化石から  
二疊系・三疊系・ジュラ系に分けられ それらが更に多様な岩  
相に細分化されている。 オリストストローム相はジュラ系中  
に発達している。 このような内容は二疊系を主体とする「秩  
父古生層」の概念からは大転換で 地質図幅としては 昨年出  
版された「八幡」に続くものといえよう。 しかし「未区分中  
・古生層」として表現されている部分も広い。 北西隅に分布  
する飛騨外縁帯の荒城川層（石炭系）との関係は 興味を持た  
れるところであるが 「第四系」に覆われるため 確認されて  
いない。

中央部から南部にかけて 白亜紀後期の濃飛流紋岩類が分布  
する。 層的に 3枚の厚い溶結凝灰岩層と2枚の凝灰岩層  
とに分けられる。 温泉ボーリング（鈴蘭高原）のコアの観察  
から 厚さ700m以上のクーリングユニットの存在が報告され  
ている。 これらをもたらしした巨大な火砕流の給源は この地  
域よりも南方にあったらしい。 フィッショントラック年代は  
70-65 Ma。

高山盆地とその周辺の「第四系」は 測年データから上部鮮



新統と中部更新統（一部は下部更新統？）に大別された。 両  
者共 礫・砂・シルトからなる河成堆積物であるが 前者はデ  
イサイト溶結凝灰岩（丹生川火砕流積物）を また後者は安山  
岩—デイサイト質の泥流（？）堆積物や 流紋岩溶結凝灰岩  
（上室火砕流堆積物）を含んでいる。 これらの火砕岩類は  
いずれも東方の北アルプス地域から流下したものとされており  
乗鞍火山列の先駆的活動として興味深い。

この報告書には 上記のほか 跡津川方向の活断層と地形発  
達史 亜鉛・鉛・銅・螢石などの鉱脈型・スカルン鉱床など  
についても かなりのページ数が割かれている。 図65 表12  
図版8 が添えられている。

上に掲げた地質図（高山図幅北部）には 中・古生層中に発  
達する東北東—西南西方向の断層系 濃飛流紋岩類北縁部の同  
方向の断裂と弧状岩脈（花崗斑岩） 地壘山脈としての位山分  
水嶺をもたらしした同方向の活断層が示されている。 活断層の  
ルーツを探るには好適のフィールドである。

西隣の三日町図幅（1982） 北隣の船津図幅（1957）と併せ  
て読むことをおすすめする。



### 5 万分の 1 地質図幅の新刊

## 高 山 TAKAYAMA

### 5 万分の 1 地質図幅 地域地質研究報告



著 者 山田直利・足立 守・梶田澄雄  
原山 智・山崎晴雄・豊 遙秋

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価格 2,980円

地 質 ニ ュ ー ス	第 371 号	7 月 号
	定 価 ￥ 600	千 実 費
昭和60年7月1日	発 行	
編 集	工 業 技 術 院 地 質 調 査 所	
発 行 人	林 久 雄	
発 行 所	株 式 会 社 実 業 公 報 社	
	東 京 都 千 代 田 区 九 段 南 4 の 2 の 12	
	千 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振 替 口 座 東 京 1-32466	
総 発 売 元	株 式 会 社 実 業 公 報 社	出 版 事 業 部